

# 月刊 やちまなこ

2012.1.15 発行

No. 170

## 1 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



青白く霞んだ地平線から太陽がゆっくりと昇る。遠くの山々を赤く染め、やがてハンノキ林もオレンジ色に輝いた。

新しい年を迎えた釧路湿原は、いつもと変わらない景観が眼下に広がっていた。明け方の寒さは厳しく、頬に当たる風はまるで針のように突き刺すような痛さだ。

ダイヤモンドダストの輝きとともに2012年を祝うようにタンチョウの鳴き声が聞こえた。

# コッタロ川と湿原のほとりから

139 2012年1月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

恭賀新年



暖冬真っ只中の年明けとなりました。積む白雪も50cmを越えた窓外をうっとり眺め、サラ・サーテのレコードに耳を傾け乍ら穏やかな元朝の御来光を“今や遅し”と待つ身に、勢いよく昇り始めた荘厳なる輝きの中から『金色まなこ』がチカリ！ウインクしたではありませんか（初笑い）。



ところがこの幸先良い出だしも一夜明けると一変したのです。猛烈に荒れ狂った冬の嵐は全道を巻き込んでほぼお手拳げ状態の丸2日間、外気温+6℃にはね上がり、折角の積雪も見る間に半減し、寒中とも思えない気候が未だに続いております。

毎日々々、いづれの時刻かに雪の降らない日はなく、一時的に雪雲が退いてまっ青な冬晴れが戻れば、勇んで出かけるクロカンスキーのえも云われぬ心地好さに云い知れぬ充足感が満ち満ちてまいります。



ところで猛吹雪の置き土産のようなオオモズが、数年ぶりに飛来したバードレストランを一瞬ではありますが蛻のから、にしてしまいました。それもそのはず、このところ野鳥等が忘れた頃を見計らって急襲して来るハイタカ早とのダブル猛キンに恐れおののいていたからに外なりません。

又、窓辺で優雅にホバーリングをくり返す鶴は“餌が切れてますよ〜”とお知らせしており、リンゴとミカンを「お供え」することでパフォーマンスはぴたりと止んで、ききわけのよい子供ようではありませんか。その両足をきちんと揃えたお行儀の良さにも◎。



一方庭の鶴池には丹頂のコツ&タロの留守を狙って、山蟬の母さんが通うようになり、手頃な大きさの魚をナイスキャッチしては“キョッ、キョッ”と甲高い歓声を上げるので見れば、くわえた魚をそばのワタドロの木枝に打ちつけ弱らせてからのみ込むのです。

さて、9日は見目麗しい十五夜様をツル一家と共に拝すること

が出来ましたが、夜も更けて空を渡る一輪の月が雪の大地に照り映える頃になるとエゾ福郎が、音もたてず電線に止まり、地上を見下ろします。そのシルエットを室内から観る楽しみが加わって何だかいい一年になりそうな予感がする昨今です。



## 湿原の住人たち その130

キハダ

シコロと呼ばれ親しまれているキハダはミカン科の落葉高木で、乾燥させた内皮は生薬・黄柏（オウバク）の原料になります。以前、胃腸薬にもなるのだからと、コルク質の樹皮の下にある黄色い内皮を少々削ってしゃぶってみたところ、効きそうな苦味が口に広がりました。釧路市内の飲食店では黒い実も苦味を活かして香辛料に使っていました。漢方や料理のほかにも古くから黄色の染料や防虫の効能により染め紙にも用いられました。アイヌの人はキハダを金に見立て、最も尊い神へ捧げる木幣を作ったそうです。こんなに活躍の場が広いキハダが、冬の林で春を待ちながらピエロのような笑みを含んだ顔で迎えてくれます。



## 塘路湖で連凧をあげました

7日に自然ふれあい行事「手作り連凧をあげよう」を開催しました。日本の凧の会の菊地利長さんを講師に様々な形や大きさの凧を見せてもらったあと、凧作りを開始。



ひし形の凧用紙にアニメのキャラクターや今年の干支「辰」などの図案を描き、骨となる竹ひごを固定して左右のバランスと糸目を調節したものを3枚つなげて連凧が完成しました。

早速、湖に行くとちょうど条件の良い

風が吹いていて、糸を徐々に伸ばすと次々と空へとあがってゆきました。糸の調整なども教わりながら、大人も子供も寒さを忘れて新年の空に舞う凧あげを楽しんでいました。



## つぼちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.60「冬の塘路湖、隠れた名物？」

氷が一面に張り、氷に閉ざされた塘路湖。冬の訪れを告げると共に、1月5日より、塘路湖のワカサギ釣りが始まりました。

冬の塘路湖と言えばワカサギなのですが、昔この時期に菱の実を取っていました。菱の実の収穫は基本的に実のなる秋なのですが、収穫期に台風などが重なると、菱の実が湖底へ落ちてしまうこともありました。冬の菱の実捕りは、湖底に沈んだ菱の実を、先端にタオルなどを巻き付けた長い棒をつかって、トゲにひっかけて取りました。本来は夫婦2人でやる作業なのですが、妻一人で捕る時は、「アイヌ代わり」と呼ばれる補助器具を使って取ったそうです。なお時期の菱の実は黒く変色しており、実が熟していて秋に採る菱の実よりおいしいのだそうです。

実は塘路湖の隠れた名物かもしれません。ただ菱の実には漁業権があるので、漁師さんをお願いしないと。 坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



